

マネージメント情報

※カナダ・アメリカ研修報告【アメリカ大農場編…Vol.1】

「今アメリカの大規模酪農場はどうなっているのか？」

昨年この欄でも紹介しましたが、アメリカ中西部の酪農は 100 頭未満の Old red barn といわれるホーズデリーマンの表紙に出てきた朱色のつなぎ牛舎から 1 つの建屋に数千頭規模の乳牛飼養する大規模フリーストール牛舎 (Large Free stall Barn) がかなりのスピードで増えています。今回その中の 1 つの Milk Source Rosendale Dairy を視察することができましたので紹介します。

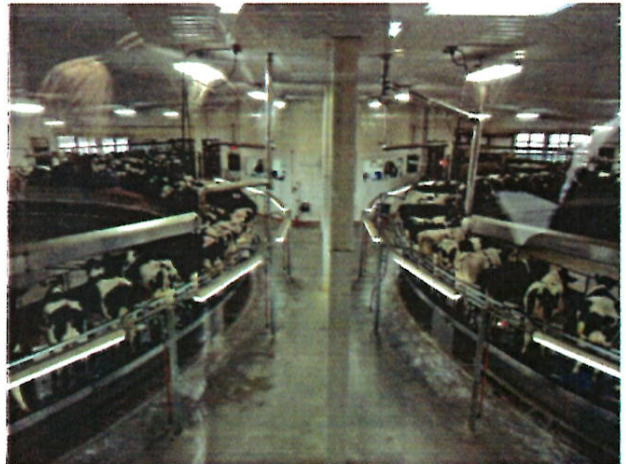
【Milk Source Rosendale Dairy】

ウイスコンシン州グリーンベイから 30km ほど南にある Milk Source Rosendale Dairy を紹介します。オーナーは 3 名でウイスコンシン大学の同級生が 1999 年に始めた農場です。各々が酪農家の出身でその起源は 1965 年に始めた 30 頭規模の酪農家まで遡るそうです。他州にも搾乳牧場、育成牧場がいくつかあり総飼養頭数は育成牛も含めて 70,000 頭(搾乳牛 40,000 頭)になります。

【この牛舎の中に 9,000 頭の牛がいます】



【80P のロータリーパーラーが 2 期並んでいます】



今回訪問したこの農場では現在 9,000 頭を飼養し(搾乳牛 8,100 頭)牛舎はパーラーを中心に左右対称(左上写真)で 1/2 ずつの牛を飼養。従業員は 90 名で 70 名が搾乳担当、20 名がその他の給餌、糞尿処理、機械整備等の外回りを担当。

搾乳は 80P ロータリーパーラー(右上写真)が同じ建屋に 2 基あり 1 日 3 回搾乳、1 基当たり 40 分で 320 頭を搾乳する。2 基のため 1 時間で 1,000 頭の搾乳が可能。現在別の州で建設中の農場では 100P×2 基とのことでした。牛乳生産量は年間 125,600t(344t/日)、45.1Kg/頭/日、F3.58%、P3.08%、SCC20 万、平均産次数 2.7 産です。

また、大規模農場経営をする上で地域の理解がないと成立しないので、コミュニティとの良好な関係を維持し、次世代の子供達との関わりを持ち環境に優しい酪農(厳しい環境基準を遵守)をめざしているそうです。

この農場の面白い特徴としてオーナーの考えから牛舎内で口笛や音楽をいっさいかけないそうです。酪農場の従業員のほとんどはラテン系の人たちでどの農場へ行っても陽気で特にパーラーでは大音響でラテン音楽がかかっているのが普通ですがこの農場はとても静かでした。

従業員教育もしっかりしていて、繁殖検診から一般診療、第四胃変異の整復手術まで獣医師ではなく従業員が行います。技術は先輩の従業員が新人に教育するという形をとっています。